

知的障害教育における「育成すべき資質・能力」を踏まえた教育課程編成の在り方（1）

—アクティブ・ラーニングを活用した各教科の目標・内容・方法・学習評価の一体化—

○明官 茂*・横尾 俊*・神山 努*・清水 潤*・松井優子*・半田 健*・村井敬太郎*・福本 徹* **
・涌井 恵*・武富博文*

(*国立特別支援教育総合研究所) (**国立教育政策研究所)

KEY WORDS: 知的障害 資質・能力 カリキュラム・マネジメント

I. 目的

文部科学大臣から中央教育審議会に「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問がなされたのは2年前である(2014年11月)。ここでは、新しい時代に必要となる「育成すべき資質・能力」を踏まえた教育目標・内容と学習・指導方法、学習評価の在り方について検討することが示された。中央教育審議会では、これらの検討を進め、「教育課程企画特別部会における論点整理について(報告)」(2015年8月)をまとめた。ここでは、学習指導要領改訂の視点として、「教育課程全体や各教科等の学びを通じて『何ができるようになるのか』という観点から、育成すべき資質・能力を整理する必要がある。その上で、整理された資質・能力を育成するために『何を学ぶのか』という、必要な指導内容等を検討し、その内容を『どのように学ぶのか』という、子供たちの具体的な学びの姿を考えながら構成していく必要がある」と述べている。

本研究では、育成を目指す資質・能力の考え方や、それを実現するための指導方法とされるアクティブ・ラーニングの実践に焦点を当て、新しい時代に必要となる「育成を目指す資質・能力」を踏まえた、目標・内容・方法・学習評価の一体化を意識した、特別支援学校(知的障害教育)における教育課程編成の在り方について検討することを目的とする。

II. 方法

1. 研究 I では、知的障害教育における育成を目指す資質・能力をどう捉えればよいかについての具体的検討を行った。また、育成を目指す資質・能力の具体像を示すことを目的に、OECD が提唱するキー・コンピテンシーの要素について整理し、実際に特別支援学校で整理している「育てたい力」の分析を行い、海外の情報も収集しながら検討を行った。
2. 研究 2 では、研究協力機関の実践に基づく知的障害教育分野でのアクティブ・ラーニングの検討を進めた。特別支援学校(知的障害)におけるアクティブ・ラーニングの取組の実際を探ることを目的に、文献研究からアクティブ・ラーニングについての情報を得るとともに、研究協力機関における実践事例の収集と分析を行った。
3. 研究 3 では、知的障害教育における教育目標と内容・指導方法、学習評価が一体的につながりをもつための工夫の検討を行った。一体的につながりをもつために必要な要素やシステムについて探っていくことを目的に、文献研究及び研究協力機関における実践の情報収集と分析、全知長情報交換資料のアンケート結果から検討を進め、育成を目指す資質・能力を踏まえた知的障害教育における一体的な教育課程編成の構造図を提案した。

III. 結果

(1) 育成を目指す資質・能力を踏まえた教育課程編成

OECD のキー・コンピテンシーのような汎用的能力に関する指導をすでに指導で取り扱っており、知的障害のある子供に対しても、そのような指導内容を扱うことが可能であることを指摘した。また、21 世紀スキルの定義に示された初歩レベル、高次レベルといった段階分けやイギリスの知的障害のある子供を対象としたキー・ファンクションスキルの内容例を参考にすると、原初的レベル、あるいは初歩レベルの内容を含めて考えることで、より知的障害の重い子どもたちへの指導内容のイメージを持つことができるだろうと指摘した。日本の知的障害教育においても、学校現場での実践を積み重ねながら、育成を目指す資質・能力が発達・伸長していく段階を明らかにすることが今後の課題と考えられる。

(2) 組織的なカリキュラム・マネジメントによるアクティブ・ラーニングの視点での授業改善の工夫

「知的障害教育における「育成すべき資質・能力」を踏まえた教育課程編成の在り方(2)」で詳しく記述

(3) 知的障害教育における一体的な教育課程編成の構造図の提案

全国特別支援学校知的障害教育校長会との協働により、全国 700 校以上の知的障害特別支援学校の学校教育目標と教育内容、指導方法、学習評価が一体的なつながりをもつための工夫についての調査・分析を行った。その中で、学校教育目標と教育内容、指導方法、学習評価が一体的なつながりをもつための工夫としては、自由記述の分析から、ビジョン(コンセプト)作りやスケジュール作り、場作り、体制(組織)作り、関係作り、コンテンツ作り、ルール作り、プログラム作りの 8 つの要因により、各学校の課題や特色に応じた様々な工夫がなされている状況が明らかとなった。

IV. 考察

本研究は、新しい時代に必要な、育成を目指す資質・能力の考え方に基づいた教育課程編成をどう考えるべきかを目的とした。2年間の研究をもとに「知的障害教育におけるカリキュラム・マネジメント促進フレームワーク」及び「育成を目指す資質・能力を踏まえたカリキュラム・マネジメント促進モデル(試案)」を提案することができた。前提として、育成を目指す資質・能力は原初的レベルや初歩レベルの内容を含めて検討することで知的障害のある子供に対しても同様に考えられるとの検証があった。

付記 本発表は平成 28 年度国立特別支援教育総合研究所知的班基幹研究をまとめたものである。

(MEIKAN Shigeru, YOKOO Shun, KAMIYAMA Tsutomu, SHIMIZU Jun, MATSUI Yuko, HANDA Ken, MURAI Keitaro, FUKUMOTO Toru, WAKUI Megumi, TAKEDOMI Hirofumi)